

副理事長就任あいさつ

平成20年を振り返って

鳥取県農林水産部長 鹿田 道夫



平成20年はどんな年であったかと振り返ると、世界経済のグローバル化が推奨され、何事も経済最優先で取り組むことが当たり前の世の中の風潮にブレーキがかかりそうな気配を感じた年ではなかったかと思います。

木材においても、輸出する木材に高い税金をかけるなど、実質的な輸出抑制策を取る国が増え、我が国の多くの商社は、木材調達を国内に振り替え始めています。

このほか、原油の異常な高騰や行き場を失った投資マネーが穀物相場へ流れ込み家畜の飼料が高騰するなど、米国ブッシュ大統領のとうもろこしのバイオエネルギー政策など、おかしな政策と相まって、国内の農林水産業は大きく振り回されました。まだまだ解決の糸口は見えませんが、改めて、多くの人たちが自分たちの衣食住はできるだけ自国で賄えるようしなければと痛感していると思います。

規制緩和、グローバル経済もモラルがあるという前提での競争社会だと思いますが、実際は拝金主義の金儲けが優先し、金が無い人は駄目みたいな風潮が気になります。

今年11月、鳥取県協同農業普及事業60周年記念大会の記念講演で来られた元京都府農業改良普及員で、現在はNGO法人ペシャワール会の高橋修さんから9月にアフガニスタンで拉致され亡くなった伊藤和也さんのお話を伺いました。伊藤さんは、勤めをやめてアフガニスタンの農業計画に参加、「自分ができることをやりたい、現地の人と一緒に成長したい、子供たちが将来、食料のことで困ることのない環境に少しでも近づけることができるよう力になれば」という思いで取り組み現地の人に愛され、作物もたくさん獲れるようになり大きな成果を上げつつあり、アフガニスタンが本来あるべき緑豊かな国に戻すことのお手伝いをしたいという夢に少しづつ近づいていたと思うと、本当に残念な事件でした。

日本は、アフガニスタンに比べると、山には緑が豊かに茂り、水も豊富なすばらしい自然に恵まれた国です。アフガニスタンのように戦火にまみれ緑の無い国とは大きく違います。

今、私たちは、歴史や文化と同様に、先人たちから預かっているこの美しい緑の大地をより良い形で次の世代に引き継いでいく責任があります。

不景気の風が強く吹いている厳しい状況ですが、県民の皆さん、企業、団体等の理解と支援を得て緑化活動を進めたいと考えています。

今後とも、緑化推進委員会の運営について、ご理解とご協力をお願いします。

緑と水の森林基金事業

平成20年度新規事業 木工工作キット配布事業

小中学校の児童・生徒に木材に触れることを通じて木材の良さを認識してもらうため、県産材を利用した工作キットを希望の学校に配布する事業に取り組みました。児童、先生方から沢山のお便りをいただきました。大変ありがとうございました。

♡CDラックを作りました..... 八頭町立隼小学校 岩城真瑚

わたしは、CDラックを初めて作りました。ひさしぶりに木材を作ったので最初すごく楽しみでした。ふくろをあけたとたん、木の香りがぶんぶんしました。わたしは、木の香りが大好きなので、思わずうっとりしました。

まず初めに、木の板に絵をかきました。紙ではなく、木にかくので、ざらざらしてかきにくかったけど、絵の具をこくして工夫しました。そして、色をぬる時、板の線に合わせてぬることを注意しました。

次に、組立とくぎを打ちました。くぎを打つ時、木はかたいから一回を強くたたかないとささりませんでした。慣れるとスムーズにできるようになりました。

最後は、ふちどりです。最後の仕上げなので心をこめてふちどりをしました。

でき上がりは最高で、くぎもきちんと打てていたのよかったです。家でまた一つ木材の物が使えるのでうれしいです。

♡本立てがうまくできた..... 日南町立石見東小学校 小谷みずき

最初は板が5枚で、きれいにできるかな？と思いました。

くぎ打ちは2回やったことがあったけど、本だなはやったことがありませんでした。木はとってもきれいに切ってあって、みぞもあってとても簡単に作れました。

できればは、くぎが1回たりなさそうなところもあったけど、うまくできたと思います。「こんなにきれいにできてよかった。」と思います。

♡感じたことを短歌にしてみました..... 岩美町立岩美西小学校

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| ●くんくんくん そばくなおいが ただような 森林のにおい いい気持ちだな | 北浦 凌 |
| ●木のにおい 自然のにおいが してるんだ CDラック 最高だなあ | 谷林 初月 |
| ●自然から 作り出された 木の匂い いやされていく やさしい匂い | 小栗 拓海 |

指導をされた先生方のコメント

- 児童は木工作品の製作に興味があり、いつになく真剣に取り組んだ。
- 釘で部材をつなぎ合わせることの難しさと、一人ではどうにもならず「2人の力によってどうにか完成することができた。」というチームワークの大切さが良くわかった。
- 身近で木材の品物が使える喜びを感じた。



本立ての組立状況



釘打ちは難しいな

第18回森林のめぐみ感謝祭の開催

「とっとり森林月間」のフィナーレを飾る第18回森林のめぐみ感謝祭（実行委員会会長山根英明）が、平成20年11月2日（日）に米子市淀江町・大山町「むきばんだ遺跡」周辺を会場に開催されました。

式典では、本年度森の名手・名人に認定された山口^{やまぐち} 敏^{さとし}、影山^{かげやま} 千世子^{ちせこ}の両氏に、本委員会の鉄永幸紀理事長からの認定証が伝達されました。当日は、県下各地から約1,000人の来場者があり、木工教室や椎茸植菌体験、森林環境保全税事業パネル展示、境港大漁太鼓のアトラクション等が行われました。また、周辺の市町村・団体等の出展会場は新鮮な産地直売で大にぎわいでした。

本委員会は、実行委員会メンバーとして参画し、淀江小学校みどりの少年団の協力により、来場者に緑の募金を呼びかけるとともに、ヤマボウシ、シバグリの苗木各500本を午前・午後の2回に分けて、来場者に無償配布しました。また、併催行事として森林ボランティアや一般公募による参加者の枝打ち体験交流を大山町のヒノキ林で実施しました。36名の参加があり楽しく体験できました。鳥取市から参加した方は「枝打ち作業は初めてであったが、枝を落とした後がきれいになり、気持ちよかった。」と話していました。体験場所を提供いただいた所有者の方の参加もあり、「枝打ち後は林が明るくなり、これで木も元気に生長していくだろう。」と、言っておられました。



苗木の配布



枝打ち体験

緑の募金事業

桜の苗木植を実施して

伯耆町金屋谷区長

四季を通じて雄大な大山のすそ野に恵まれ、森と水の思いは地区住民にとって一番の誇りです。幸いこの度、緑の募金事業が採択され、自治会役員で話し合いました。その結果、集落戸数と同じ52本の桜の苗木の植樹計画をし、参加を呼びかけました。当日は予想をもしない40人以上の参加者があり、1時間余りで作業を終えることができました。

当地区での桜の植樹は30数年前に当時の青年会によって植えられて以来のことです。天候に恵まれ和気あいあいのうちに楽しい時間が過ぎました。今回の活動を通じて、緑化という目的と、地区の皆さんが一つになり親睦に役立ったようです。

近い将来、自分の植えた桜の木の下で花見ができることを誰もが楽しみにしています。



「城山まもりたい」緑化事業の取組に参加して

鳥取市鹿野町鹿野 小谷 英弘

私は、鹿野城趾公園の緑や景観をまもりたく、この度、ボランティア「城山まもりたい」の取組に参加し、小学生、鳥大生、一般の方と共に、苗木を植えたり、草刈や樹木の植林をしました。

自分が植えた樹木が成長するのが楽しみとなりました。

皆さんも機会があれば、緑を育てる取組に参加されては如何ですか。

○ しば桜植え

鳥取市立鹿野小学校 久野 菜月

11月9日に、私はしろ山守りたいのみなさんや、鳥取大学のみなさんと、しば桜植えをしました。最初、しば桜のことがよく分からなかったけど、植えてよく分かりました。



初めてしろ山守りたいのボランティアに参加したけど、すごくおもしろかったです。また参加して、ごみ拾いや、花植えなどをもう一度やってみたいです。

みんながやさしくしてくださったのでうれしかったです。最初のあいさつも少しきんちょうしたけど言えてよかったです。この前植えたしば桜が春になったらきれいな花になるのが楽しみです。

学校環境緑化モデル事業

桜木と果樹で緑に親しむ110年の森

鳥取市立津ノ井小学校長 田中 精夫

はじめに

津ノ井小学校では、創立110周年を記念して、昭和59年度卒業生が植樹したソメイヨシノの桜木を再生すると共に、果実のなる樹木を植栽して緑の森を整備しました。森の名前は、110周年に因んで「110年の森」としました。森には、サクラが3种植栽されています。ギョイコウ、アンギョウカンザクラ、ソメイヨシノです。これらは、早咲き、遅咲きと開花時期が異なるので、1ヶ月近くサクラの開花が楽しめます。実のなる果実は、ザクロ、スモモ、ミカン、リンゴ、カキです。約80㎡の森ですが、校舎にごく近いので、児童が樹木や果実の成長や変化を観察したり、遊んだりして密接に体験し親しめる森として期待しています。また、ベンチを設置して、地域の方が気軽に立ち寄り、児童と交流のできる場所としても活用します。

完成式

5月30日（金）に完成式が開催されました。6年生全員が森の前に整列し、完成を祝うと共に校歌を歌いました。式には、ローソン本部、近隣のオーナー、公民館長、PTA等14名も参加され、祝福していただきました。



秋になって

芝もようやく根を張り、今年初めて果実が実りました。ザクロの真っ赤な実を見て、「美味しそうだけど食べれるのかなあ。」不安げだった子ども達、実際にザクロを食べて、舌鼓、美味しい美味しいを連発しました。樹木の紅葉も目を楽しませてくれます。「色とりどりで美しい。」子ども達の感想です。樹銘板を付け、木の解説をつけました。これを見て他の樹木を調べてみようとする児童も現れました。樹木への関心が広がってきました。

休みの日には、大人の方やスポーツ少年団の子ども達が休憩しています。ほっと一息ということでしょうか。木を眺めると心が休まります

みどりの少年団交流集会



平成20年度みどりの少年団交流集会を、8月6日から2泊3日の日程で船上山少年自然の家において開催しました。米子市の箕蚊屋・車尾・成実・淀江の4小学校と、倉吉市北谷小学校の総勢52名の参加となりました。

1日目の野外炊飯は、各班で調理した豚汁は美味しくて、お代わりで完食でした。

2日目の船上山登山は暑い中ではあったが全員頂上を征服しました。頂上では、思わぬクワガタムシの捕獲に大喜びでした。指導をしてくださった安田さん、清水さん、山根さんから森林の機能、植物の特性等の話を聞きました。少年団からの質問もあり皆が真剣に

勉強しました。最終日には、ヘルメット姿で下刈り作業の体験を行うなど、団員は元気に活動し交流を深めました。「下刈りは汗が出たけど、木が早く大きくなってほしいと思って草を刈った。」そうです。

平成20年度の「森の名手・名人」認定

●森の伝承・文化部門 山口 敏さん（鳥取市佐治町）

●森の恵み部門 影山千世子さん（伯耆町）

森林の文化や技術の伝承を目指す“もりのくににっぽん運動”の一環として認定される「森の名手・名人」に、平成20年度は、鳥取県からは、森の伝承・文化部門で山口 敏（鳥取市佐治町）さん、森の恵み部門で影山千世子（伯耆町）さんが認定され、2名の認定がありました。これで、鳥取県の「森の名手・名人」は合わせて17名になりました。

今年の認定証の伝達は、11月2日に米子市淀江町・大山町の「むきばんだ遺跡」周辺広場で開催された第18回森林のめぐみ感謝祭の式典の中で行われ、鉄永幸紀理事長から認定証と本委員会からの記念品が贈られました。



山口さんは、鳥取市佐治町地方で古くから使用されている「板傘」の作成技術を伝承し、公民館活動などで後継者育成に尽力されています。

また、影山さんは、伯耆町で椎茸栽培をされ、卓越した技術で農林大臣賞をはじめ各種品評会で上位の賞を獲得されています。「椎茸だし醤油」、「椎茸煎餅」、「椎茸料理」等を開発され消費拡大にも取り組まれ、地域の牽引者として活躍されています。

喜寿記念樹の贈呈

喜寿をお迎えになった方の長寿をお祝いし、緑を育てることの大切さを次代に引き継いでもらうため、平成15年度より行っている喜寿記念樹の配布事業を本年も行いました。

新聞、広報紙、ホームページ等により公募を行ったところ、83名の希望があり、鉢植の「紅梅」を贈呈しました。応募に当たって皆さんに「緑化や樹木」、「喜寿などへの想い」のコメントを書き添えていただきました。

（全文） 戦中戦後の混乱期を生き、喜寿を迎えました事に感謝し、鳥取に生まれたことを喜び、紅梅と共に心穏やかに過ごせることを希望します。

（米子市 女性）

また、配布後に電話、ハガキ等でお礼のお便りをいただきました。

（全文） 此の度は、喜寿記念樹を贈呈下さいまして有難うございました。

地球環境問題は、種々取り沙汰されておりますが、その中で緑を守り育てることは、私たち人類の責務と考えます。頂戴しました紅梅は、盆栽仕立として身近に置き末永く育てることと致しました。末筆ですが貴委員会のますますのご発展をお祈りしながら書中にてお礼申し上げます。

（鳥取市 男性）



第19回緑の少年団全国大会（福島大会）に参加して

琴浦町立八橋小学校 教諭 三谷 昇

平成20年7月30日から8月1日の3日間、福島県の郡山ユラックス熱海を主会場に、会津・中通り・浜通りの3地区に広がる広大な自然環境の中で、第19回大会が「はぐくもう 水と緑の うつくしま」をテーマに開催されました。

本校から、6年生の2名が参加し、福島の子ども達をはじめ全国の子ども達と交流活動や共同生活を通じて、3日間にわたり少年団活動の大切さと楽しさを感じてきました。

今回の開催地が福島県ということもあり、前日から飛行機と新幹線を使い継ぐ長旅と初めての全国大会参加で2人の子どももかなり緊張気味な様子でした。次々と主会場に集まる同じ少年団活動をする全国からの子ども達の姿を見て、鳥取を代表してきていることを実感したようです。初日の記念式典では、全国の参加者150名、福島県内からの参加者1,350名、計1,500名という大会参加者数に圧倒されましたが、開会の各県団旗入場の大役も2人はしっかり果たしてくれました。地元の少年団活動発表やアトラクションも、趣向を凝らしたもののばかりでしたし、環境緑化の活動にとどまらず、自然との共生活動を多く取り入れた発表が目につきました。

2日目の午前中は、阿武隈川源流にある「国立那須甲子青少年自然の家」周辺の森林・源流観察がありました。「うつくしま」で表現される自然豊かなブナ林の森を散策し、そこに生きる小動物を見ることもできました。岩魚のつかみ取りと昼食を兼ねた調理もあり、自然の恵みを肌で感じる時が過ごせました。午後からは、「県文化財センター白川館」での見学と勾玉づくりがありました。森林が育んできた文化と歴史を学び、県内で出土した土器などに直接手で触れる体験には、数千年前に生きた人たちに出会えたような感動を子ども達は持ったようでした。勾玉作りにも悪戦苦闘しながら取り組みました。

最終日は、会津磐梯山と猪苗代湖を眺めながら「野口英世記念館」を見学しました。地元の子ども達の案内で館内を見学しましたが、郷土のすばらしい先輩の話を自分の言葉で話してくれたのが印象的でした。閉会式では、この3日間の活動を振り返る体験活動発表会がありました。全国の子ども達も同じ緑の少年団としてさまざまな取り組みをしていることを学び、「鳥取でも自分達のできることを精一杯やりたい。」との意見をまとめ発表しました。特に本校で取り組んでいる給食用牛乳パックリサイクル活動が、全国でも行われていて、緑の少年団活動とも無縁でないことに自信が持てたようでした。次の開催地である京都での再会を誓いながら、かわいい赤ペコのお土産を持って帰路につきました。

初めて全国緑の少年団全国大会

琴浦町立八橋小学校 6年 河坂結加枝

7月30日、私は初めて緑の少年団全国大会に参加しました。参加の希望を出したとき、とても不安でいっぱいでした。「全国大会では、どんなことをするのだろう。」「一人で行動しなくてはいけないのかな。」「友だちはできるだろうか。」など本当に不安でした。

全国大会当日、会場で開会式の練習を何回も何回もしました。私はプラカードを、一緒に行った谷口さんは旗を持って、開会式の入場行進の練習をしました。プラカードは少し重く、その重さが私に緊張をさらに感じさせました。後ろで旗を持っている谷口さんの堂々とした姿を見て、私は励まされて不安もなくなり、しっかり入場をすることができ、無事に記念式典を終えることができました。この大会でびっくりしたことは、参加人数です。全国から1500人もの人が集まったことです。周りの人を見ても知らない人ばかりでしたが、1日目の宿泊施設でのオリエンテーションの時には、大阪から参加した人と友だちになることができました。自己紹介をして、この大会に参加するようになったのかなどいろいろ話しました。そのときは、とてもうれしかったです。お風呂に入った後、同じ部屋の人とトランプをして遊びました。

翌日、同じ班になった人たちと一緒に、いろんな体験活動をしました。岩魚つかみをした後、調理もしました。私は魚がとても怖かったので、1匹も捕まえることができませんでした。でも調理はしました。岩魚の塩焼きはとてもおいしかったです。昼からは、文化財センターに行きました。そこでは、今までテレビや教科書でしか見たことのなかった本物の縄文式土器や弥生式土器を触ったり古墳時代の道具を持ったりしました。直接触れるなんて考えなかったので、驚きました。勾玉作りにも挑戦しました。初めてだったこともあり、完成できなかったの、家にもって帰り続きをすることにしました。最終日には、野口英世記念館にも行き、いろいろな資料を見ることができました。

閉会式では、思い出に残ったことを参加したみんなと共に発表しあいました。友だちになった人と、住所の

交換もしあい、手紙を出すことを約束しました。最初に不安に思っていたことがうそのようで、たくさんの友だちができてよかったです。この友だちを大切にしていきたいです。

最後に、この活動を応援してくださった方々に感謝します。学校で花を植えたり樹名板を木につけたりしている活動をしています。全国で同じような活動をしている少年団がたくさんあり、みんなが真剣に取り組んでいる様子もわかりました。環境問題の話もたくさんあり、ゴミの問題やリサイクルのことも、自分達の少年団活動と無関係でないこともよくわかりました。大会で学んだことを忘れないように大切にして、これからの活動に活かしていこうと思います。来年は京都であるそうです。鳥取からもたくさん参加してほしいと思いました。

琴浦町立八橋小学校 6年 谷口 美奈

7月30日から8月1日までの間、福島県にて「緑の少年団全国大会」が開催されました。わたしは、八橋小学校の代表として、河坂結加枝さんと2人で参加しました。福島県に行くまで友だちができるか、不安と緊張でいっぱいでしたが、全国から参加した人たちとすぐ仲良くなり、住所の交換をしたり写真を一緒に撮りあったりして、とてもいい思い出になりました。

1日目は、開会式などの式典がありました。私は、少年団の団旗を持ち、河坂さんは、プラカードを持ち開会式に参加しました。最初の入場の練習のときは、とても緊張しましたが、だんだん緊張もなくなり落ち着いてすることができました。式典も終わり、最初に泊まる施設に移動しました。福島県には、たくさんの緑の少年団があり、たくさんの人が参加していました。わたし達の班は栃木県の人と福島県の3つの小学校の人たちの班でした。夕食の後、交流会がありました。みんなでゲームをして、自己紹介をしあいました。すぐに友だちができ、うれしかったです。

2日目には、泊まった少年の家の近くの川で岩魚のつかみ取りがあり、自分達で調理しました。わたしは、岩魚を10匹近く捕まえました。魚をつかみ取りしたことは、今までに3回あり、そのうち2回は虹鱒でした。虹鱒は、速いし大きいので獲りにくかったけど、岩魚は小さくて捕まえやすかったです。調理もしました。調理のときに、内臓を取り出すのに時間がかかり、すごく大変でした。でも自分で調理した魚は格別でした。また調理に挑戦し、おいしくなった魚を食べたいと強く思いました。

次に、「まほろん」という文化財センターに行きました。福島県から出てきた土器や復元された展示物を見ました。土器に触ることもできました。ここでは、自分が作る世界に一つだけのオリジナル勾玉作りをしました。わたしは、形を削るのに苦労しました。特に形の大本を作るのに苦労したけど、丸くしていく作業はとてらくでした。全て完成することはできなかったの、家に帰ってから続きをし、夏休みの工作にしました。

3日目は、はじめに野口英世記念館に行き、野口英世さんについて学びました。記念館の中には、野口英世さんが生まれた家がそのままあり、やけどをした囲炉裏もありました。たくさんの写真や資料も見ました。千円札もありました。私は、もっと野口英世さんのことを深く知りたいと思いました。見学が終わったあと、開会式があった会場に戻り、閉会式をしました。活動発表会があり、私たちも発表しました。ステージのスクリーンにわたしの写真が大きく写っていたので少し恥ずかしかったです。

全体を振り返って、すごくいい思い出ができたと思いました。まずたくさん友だちができたことです。仲良くなれたし、いろいろな話ができたことです。住所の交換もして、手紙を出す約束もしました。この友だちを

自分の宝物として大切にしたいです。次に、自然体験や歴史を学ぶことができました。たくさんの学校で、環境によいことをしようと活動していることもわかりました。今まで知らなかった多くのことを学ぶことができ、特に野口英世さんのことは自由研究でも調べ、歴史や功績についてますます偉大な人だということがわかりました。

最後にたくさんの思い出を作らせてもらった方々、特に鳥取県緑化推進委員会の森原さんには感謝しています。この体験を無駄にせず、これからの生活に活かしていきたいです。本当に参加させてもらってよかったです。ありがとうございました。



第23回全国育樹祭が愛媛県で開催される

おか たかしげ

岡田貴茂さん（平成20年度緑の少年団育成成功労賞）

国土緑化推進機構会長の感謝状が授与されました。

平成20年10月25日（土）愛媛県で第23回全国育樹祭が開催されました。その併催として、10月24日（金）全国緑の少年団活動発表大会が開催されました。その席上、緑の少年団育成成功労賞で岡田貴茂さん（智頭町）に国土緑化推進機構から感謝状が授与されました。

岡田さんは、平成2年から永きにわたり、山郷小学校みどりの少年団活動の学校林作業や椎茸栽培・炭焼き体験を指導され、みどりの少年団から「貴茂さん！」として慕われ、広く青少年や住民に森林を守り育てることの大切さを普及啓発されています。

この度はこの功績が認められました。誠におめでとうございます。





感謝状授与の状況

国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール審査結果

鳥取県と共催で実施した「平成21年度用国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール」鳥取県予選は、審査の結果次の皆さんが受賞されました。

なお、鳥取県知事賞、鳥取県教育委員会教育長賞及び（社）鳥取県緑化推進委員会理事長賞の6点を、（社）国土緑化推進機構が実施する中央審査に応募したところ、米沢尚宏さんと米原静香さんの作品が、（社）国土緑化推進機構理事長賞に決定しました。

小学校の部	区 分	小 学 校 の 部			中 学 校 の 部			中学校の部
		学 校 名	学 年	氏 名	学 校 名	学 年	氏 名	
	鳥取県知事賞	鳥取大学 付属小学校	3	よねざわ たかひろ 米沢 尚宏	米子市立 淀江中学校	1	たかしましん たろう 高島 慎太郎	
	鳥取県教育委員会 教育長賞	北栄町立 北条小学校	4	おかの のぞみ 岡野 希	米子市立 尚徳中学校	2	たけもと ふ み か 竹本 風海花	
	鳥取県緑化推進 委員会理事長賞	北栄町立 北条小学校	2	さいお みく 斎尾 海空	鳥取市立 気高中学校	2	よねはら しずか 米原 静香	
		米子市立 義方小学校	3	おかもと こうだい 岡本 昂大	いわき市立 内郷第1中学校	2	たかはし まゆ 高橋 茉優	
	佳 作	-			米子市立 尚徳中学校	2	は せ が わ ち あ き 長谷川 千晶	
		-			鳥取市立 気高中学校	2	かわさき らん 河崎 蘭	

会社・職場の募金活動紹介

この欄は、今後各方面に広く緑の募金活動に取り組んでいただくため、緑の募金活動に取り組んで載っている会社・職場を紹介していきます。

今回は、画期的な活動を行っている（株）イブキを紹介します。

（株）イブキは、鳥取市本高にあって、飼料・鶏卵・精肉販売及び、環境改善事業を行っている会社です。

地球温暖化・砂漠化などで環境破壊が大きな問題となっている昨今、「今出来ること何か一つでも」との思いから（地球環境を守るため）森林や樹木植樹・保護活動に注目されました。

募金活動は、（株）イブキブランド鶏卵パックのラベルに「緑の募金ロゴマーク」を印刷され、ロゴマーク入り卵パックの売上げの一部を（社）鳥取県緑化推進委員会へ緑の募金として寄付して戴くものです。

商品は、「食彩の夜明け」、「放飼自然卵」の2種類が募金対象です。

※ロゴマークの使用は（社）国土緑化推進機構の許可済み

